



朝鮮人参の成分

主要活性成分のジンセノサイドというサポニン群を約4%含有し、表皮に多く含まれます。

蒸気で処理をするとサポニンが変化して効果が高まるため、「紅参」の方が効果が高いといわれています。

その他、ビタミンB群、ミネラル（カルシウム、鉄、マンガン、マグネシウムなど）、アミノ酸、精油（Panacene、 β -elemeneなど）、糖類（D-グルコース、D-フルクトース、トリサッカライドA・B・C）、ペプチド、グルカンなどを含み、サポニンとこれらの成分が総合的に作用します。



朝鮮人参の薬理作用

さまざまな作用があります。

血流改善による新陳代謝促進、抗動脈硬化作用、抗利尿作用、血糖降下作用（インスリン分泌促進、インスリン作用増強）、中枢神経の興奮作用および抑制作用（精神安定作用）、血圧調節作用（常用量では血圧上昇、高用量では血圧低下作用があり、一般的に低血圧症に使用する）、強心作用、抗癌作用、抗酸化作用、抗血栓作用、副腎皮質ホルモン分泌促進作用、男性ホルモン増強作用、エストロゲン様作用などが報告されています。



重要！

摂取に注意が必要な方がいます。使用前には、必ず薬剤師に相談しましょう。特に、高血圧症、糖尿病、血栓症、出血傾向、心疾患、子宮癌、乳癌、臓器移植をされた方などは注意が必要です。

お薬に関する問い合わせがあるとき

くすりなんでもテレホン



092-271-1585

(月～金 9:00～17:30 土 9:00～12:00)

福岡県薬剤師会薬事情報センターでは、一般の方のご質問を電話で受けています。くすりの使用方法や取り扱い方などに関する質問をおよせください。

子どもさんが誤って化粧品など食べ物でないものを、飲んだり食べたりした場合の対処方法についても受け付けます。実際の診療に関わる内容については、かかりつけの医療機関、主治医にお問い合わせ下さい。

「薬事情報センター」のホームページ

知っていますか？
くすりの正しい使い方
読むおクスリ

当センターに寄せられた
質疑応答をご紹介
質疑応答

新薬・報告品目情報
医薬品情報

消毒薬の使い方をご紹介
消毒薬一覧

くすりに関するご質問に
お答えしています
くすりQ&A

副作用等が防止できた
事例をご紹介
相談事例

コンテンツいっぱいの当ホームページへ
ぜひアクセスしてみてください。

福岡県 薬事情報センター

<http://www.fpa.or.jp/johocenter/yakuji-main.html>



公益社団法人福岡県薬剤師会
薬事情報センター

FAX 092-281-4104 E-mail f-pic@fpa.or.jp
月～金 9:00～17:30 土 9:00～12:00



Vol. 10

健康食品の正しい知識で健康ライフ

上手に使おう
健康食品



今回のテーマ

朝鮮人参と
医薬品の飲み合わせ

公益社団法人福岡県薬剤師会
薬事情報センター

TEL 092-271-1585

朝鮮人参と 医薬品の飲み合わせ

朝鮮人参とは

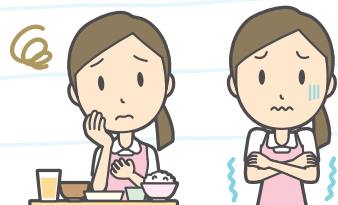
朝鮮人参（別名：高麗人参、薬用人参、和名：オタネニンジン）はウコギ科の多年草植物です。薬用部分の根を乾燥させたものは「百薬の長」ともいわれ、古来より延命長寿の生薬として使用されています。一般に、薬用人参と呼ばれますが、加工調製法の違いにより、根を水洗後、表皮をはがさずに蒸して乾燥したアメ色の「紅参（コウジン）」と、表皮をはがして乾燥又は軽く湯通しして乾燥した、やや黄色がかった白色の「白参（ニンジン）」があります。



はたらき

漢方では機能を高め体力を増強する「補気薬」として用いられます。多数の処方に配合され、虚弱体質、肉体疲労、病中病後、胃腸虚弱、食欲不振、血色不良、冷え症の効能で、新陳代謝機能の減弱がみられる虚症体質の人に使用されます。

果実・根・根茎・葉は「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」とされています。



朝鮮人参と

医薬品との飲み合わせは？



医薬品の作用に影響を及ぼすことがあります。

※健康食品は医薬品ではないので、病気の治療を目的に使用しないようにしましょう。

医薬品の作用が増強するもの

医薬品名	医薬品への影響
強心配糖体 ジゴキシン等	作用が増強する可能性がある。 朝鮮人参はジゴキシンの構造に類似した配糖体を含有し、血中濃度測定に影響を及ぼす可能性がある。
中枢神経刺激薬 カフェイン メチルフェニデート等	作用が増強する可能性がある。 副作用（神経過敏、不眠、不規則な心拍、胃部不快感等）が起こる可能性がある。
インフルエンザワクチン	作用が増強する可能性がある。 【報告事例】 ¹⁾ ワクチン接種4週間前に朝鮮人参の摂取を開始し、8週間継続したら、抗体産生を賦活してワクチンの作用が増強し、インフルエンザや風邪の発生頻度が有意に低下した。
抗うつ薬 抗精神病薬	精神症状のコントロールに影響し、副作用が増強する可能性がある。
経口糖尿病用薬 インスリン	作用が増強する可能性がある。 血糖値の変動に注意する。
血液をサラサラにする薬 アスピリン、 チクロピジン等	作用が増強し、出血傾向になる可能性がある。
非ステロイド性 抗炎症薬 (NSAIDs)	

医薬品の作用が減弱または作用に影響するもの

医薬品名	医薬品への影響
モルヒネ	鎮痛作用が減弱する可能性がある。 モルヒネ耐性および身体的・精神的依存を抑制する可能性を示唆する報告がある（動物実験）。
免疫抑制薬	作用減弱の可能性がある。
抗乳癌薬 タモキシフェン トレミフェン等	
降圧薬	高血圧症への作用は一定していない。 降圧薬の作用に影響する可能性がある。 【報告事例】 ²⁾ 高血圧症患者74名が紅参末3～6g/日を長期間服用した臨床試験では、血圧低下40名、血圧上昇5名、不変29名だった。
血液をサラサラにする薬 ワルファリン	飲み合わせの報告は一定していない。 血液凝固能の変動に注意する。 効果が減弱した症例報告や、動物実験（ラット）や健常男性被験者の実験では、相互作用はないという報告がある。

〔文献〕

1)・・・Scaglione F et al. : Drugs Exp Clin Res. 22(2):65, 1996.

2)・・・黒崎俊美ら:治療学 28(1):113,1994.
「健康食品」の安全性・有効性情報のホームページ

